一般演題

1. 肺腫瘍患者における肺門部ガリウム集積の評価

波多野　治　安藤　健　今井　康則
久山　順平　宇野　公一　有水　昇
（千葉大・放）

肺門部リンパ節について，手術後病理診断確定している123症例について術前に施行したガリウムシンチグラフィ所見と病理診断の結果を対比した．ガリウムシンチグラフィにおける肺門部集積の病的所見の基準として，「前面像・後面像ともに集積を認め，かつ前後ともに明らかに生理的集積と断定できるケースを除外したもの」を病的所見として拾った場合が最も正診率高く79.3%であった．この場合でも転移リンパ節検出率は26.2%と低かった．また「原発巣と同側の肺門部にのみ集積を前後像ともに認める症例」に関しては100%と高い検出率が得られた．この条件に当てはまるのは僅か12症例だけであったが，この場合にはガリウムシンチグラフィの肺門部リンパ節転移検出率が高いことが判った．また，肺門部生理的集積と，性差・年齢・喫煙等の臨床上の因子との間には有意の相関は認められず，読影の際，特に注意する必要性は低いと考えられた．

2. 核医学検査により長期経過観察を行った骨原発悪性リンパ腫の一例

伴　茂之　大島　統男　安河内　浩
杉山　丈夫　東　静香　廣瀬　正和
楢崎　克雄　横山　浩子　松田　剛毅
菊池　善郎　白井　辰夫　近藤　眞木
福光　延吉　（帝京大・放）

骨原発悪性リンパ腫は比較的稀な腫瘍である．今回骨原発悪性リンパ腫で長期経過観察を行った症例を経験したので報告した．

症例は68歳女性，左大腿部痛を主訴に単純X線写真では左大腿骨頸部に骨溶解および造骨像を認め，X-CTにて骨の破壊像を認めた．

骨シンチおよび^{67}Gaシンチにて同部に著明な集積あり．病理組織学的にnon-Hodgkin lymphoma, diffuse pleomorphic typeと判明した．同部にライナックX線50 Gyの放射線治療を施行した．

初診1年後，後腹膜に転移を認め^{67}Gaにて著明な集積を示した．同部にもライナック51 Gyの照射を行った．

その後6年間，骨および腫瘍シンチで経過観察を行っているが，再発，転移を認めていない．

骨原発悪性リンパ腫で長期核医学的検査による経過観察を行っている症例を報告した．

3. ^{125}I標識抗ガンマセミノプロテインモノクローナル抗体の放射線および免疫学的安定性について

藤野　淡人　石橋　晃　（北里大・泌）
松田　唯史　依田　一重　中沢　圭治
石井　勝己　（同・放）

^{125}I標識抗γ-Smモノクローナル抗体の担LNCaP腫瘍ヌードマウスの全身オートラジオグラフィにおいて，経静脈投与後8日目より肝，腎，脾などへの再分布が観察され，脱ヨード化に伴うものと考えられたが，標識抗体の安定性についてin vitro実験系により検討した．membrane ultrafiltration法による放射線学的安定性の評価では，36°C保管で，標識抗体の比率が第1日で96%，3日で90%，その後14日までほぼ90%であった．EIA γ-Sm測定系を用いた免疫学的安定性の評価では，36°C保管で，ビーズ結合能は第1日で54%，14日で40%，また，ビーズ結合率は14日間ほぼ50%であった．以上より，免疫学的な要因も考えられた．

4. 神経芽腫マススクリーニング陽性症例で興味ある核医学所見を呈した一例

渕本　康史　石田　治雄　林　奐
（都立清瀬小児病院・外）
野本　一雄　水上　省一　原　裕子
（同・放）
石井　勝己　（北里大・放）

症例は6か月の女児．マススクリーニングにて尿中VMA, HVA高値を指摘され，精査の結果，左副腎原発

Presented by Medical*Online